

コルホーズの安全対策と社会保険



I. Shkuratov

本稿には、過去10年間にコルホーズ（集団農場）で発達してきた産業安全と疾病保険について、もっとも重要な手段の要約が示されている。

コルホーズ構成員の第3回大会で採択されたモデル規則は、コルホーズの発展と民主制に新しい将来の見通しを開くことになった。中でも、各規則は労働安全と疾病保険を含めて、安全かつ健康的な労働環境と農業生産に新しい必要条件を創設した。

モデル規則は妊婦と若い人びとの給付、とくに、出産休暇および有給休暇の規定を含んでいる。

（ソ 連）

コルホーズ構成員の労働組合が設けられ、その組合は各コルホーズと各地方の労働組合との間における労働安全協約の締結を促進してきた。多数のこれらの協約は疾病給付、雇用傷害給付、および有給休暇を含んでいる。約28,500のコルホーズがそのような協約を締結しており、これまでに約4,100万ルーブルが支出された。特殊なコルホーズにおける幾つかのすぐれた結果が、この要約に引用されている。

コルホーズ構成員に対する社会保険のある統一的な制度を促進するために、今後きわめて多くの活動が必要とされるであろう。疾病給付はある期間支払われてきたが、支給率は制限され、各コルホーズによって支給額は異

なっていた。モデル規則は疾病給付、無料のサナトリウム処置、およびその他の短期的な諸給付の集約的な基金管理を行なうある統一的な制度を予想している。

第3回大会の決議に続いて、コルホーズ中央議会はコルホーズ構成員のある中央疾病保険基金を設けることを決定したが、その基金はコルホーズが拠出を支払うことになっている。その拠出は構成員に支払われた報酬総額の2.4%となるであろう。疾病給付は雇用期間によって異なる比率が定められ、その支給率は最低3年まで50%、3—5年に60%、5—8年に70%、8年以上に90%とされている。雇用傷害の場合における支給率は、雇用期間に関係なく、100%である。

これらの給付とは別に、各コルホーズは成人と子供の双方に対するサナトリウムとレクリエーション施設の建設に、ある金額を充当することができる。現在まで、約155のそのような施設が建設されてきたが、それらには8,700床が用意されている。約79のサナト

リュウムと休日の保養施設が建設中で、これらには、14,400床が用意されることになっている。労働組合の監督をうけながら、数カ所のコルホーズが共同で資金を提供する形により、多数の施設が建設されている。これらの対策はコルホーズ構成員とかれらの子供に対して、サナトリウム処置の用意をかなり増加させることになるであろう。

新しい仕組みの採用に含まれた多数の活動は、農業労働組合の加入する各種の労働組合団体に任命されていた。社会保険の監督官は各部門と労働集団毎に選出されて、新しい社会保険制度におけるかれらの重要な役割を訓練される。かれらはその制度の機能を発揮させ、かつ民主的なコントロールをすることに責任を負うであろう。

Okhrana truda i social'noe strakhovanie v kolhozakh, *Okhrana truda i sotsial'noe strakhovanie*, No. 5, 1970, pp. 23—25; No. 34, '71.

可変的な年金年齢の 実現を求めて

Achim Steffen

(西ドイツ)

本稿の筆者は、連邦政府による選択として提案されてきたある可変的な年齢制限の問題について、4つのタイプの解決策を示しながら、4制度を論じている。

社会・政治的な分野では、連邦政府が目指している改革は、可変的な年齢制限の導入を含んでいる。つまり、公的年金保険制度の被保険者は、ある期間すなわち60歳と68歳の間で、労働を停止し、老齢年金を受給するかどうかを決定することができることになる。

今日では、可変的な年齢制限が採用されるであろうというのは明白であるが、しかし、重大な経済的および財政的な諸問題が発生するかも知れないという理由から、その導入が



どのようにして行なわれるかという点は、まだ明らかでない。まず、現在および将来の年金支払いと経済発展に対応させて年金額を毎年修正する調整は、保証されなければならないし、次に、人的資源は経済成長が低下させられるほど危険にさらされるべきでない。

可変的な年齢制限には、大幅な制限条件がつけられる筈であるから、最も早い時期に退職する誘因が大きくなるということはない。むしろ、65歳以上まで労働を継続するのには価値があると感じられる。また、可変的な年齢制限は資金にかなりの余裕を生み出すようにしなければならないので、公的年金保険には、できるだけ追加的な負担を求めない。